

平成13年度秋学期 島根県立大学「21世紀・地球講座」開講科目

テーマ：「北東アジアは今」～中国、韓国、ロシア生まれの講師らが語る～

中国、韓国、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、ロシア、モンゴルの北東アジア各国は、いまだどんな状況にあるのだろうか。経済摩擦、教科書、領土問題を考えるにしても、相手国をまず知る必要がある。各国の実情をわかりやすく話す。

【リレー講座】 会場●中講義室3

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
1	朴 容寛	日・韓文化の違い —忠臣蔵と春香伝を中心に	日本の方々がお馴染みになっている古典の一つが『忠臣蔵』であるとするならば、韓国の人なら誰でも知っているという古典は愛の物語『春香伝』です。近くて遠い国であるといわれている日本と韓国ですが、それでは、両国はいかなる面において同じであり、また異なるのでしょうか。私はこの2つの作品をを取り上げ、両国の社会と文化を比較しながら両国の理解を深めていきたいのです。	10/13 (土) 15:00～16:30
2	勝村 哲也	天は蒼々野は茫々 モンゴルの草原を想う	1999年の夏、情報科学に従事する日中米の5人の科学者が、コンピューターのない世界でリフレッシュしようと、モンゴルの草原で1週間を過ごしました。それから2年、いま、モンゴルに馳せる思いを語ります。	10/20 (土) 15:00～16:30
3	鹿 錫俊	江沢民主席の「三つの代表」論と中国の政治改革	今話題になっている江沢民主席の「三つの代表」論を通して、中国における政治改革の現状を紹介し、その問題点と方向性を分析します。	10/27 (土) 19:00～20:30
4	ワジム・シ ローコフ	現代ロシアにおける改革イデオロギーとしての市場優先主義	90年代の改革の結果として生まれた体制、改革によってもたらされた国民の犠牲と恐怖、民衆の不満をコントロールするための支配層の安定策、政治・経済・イデオロギープログラムとしての市場優先主義について論じます。	11/3 (土) 15:00～16:30
5	重村 智計	北朝鮮の行方と日本の対応—メディアにだまされない方法	北朝鮮に対しては、早期崩壊論や戦争論が語られましたが、いずれも当てはまらなかった。日本人拉致疑惑の真相は何か。金正男氏の密入国事件はなぜ起きたか。報道を検証する方法と、国際問題としての北朝鮮問題を明らかにします。	11/10 (土) 15:00～16:30
7	張 忠任	日中貿易の拡大と摩擦	日中貿易の現状と問題点、特に今年4月に日本が農産品のセーフガードの暫定発動を決定し、6月に中国側が対抗措置をとったこと、中国のWTO（世界貿易機関）加盟後の日中貿易の展望などについて話します。	11/17 (土) 15:00～16:30
8	別枝 行夫	教科書問題と東アジア	2002年より中学校歴史で用いられる教科書内容及び文部科学省による検定のあり方が、日本の国内問題に留まらず韓国・中国との外交問題に発展しました。今回の問題だけでなく戦後教科書問題をも検証します。	11/22 (木) 19:00～20:30
9	真柄 欽次	北東アジアのエネルギーと環境問題	世界人口の約半分30億人を抱えるアジア大陸は、地下資源に関してはあまり恵まれていません。しかし、化石燃料の中で最もクリーンな天然ガスについては、ロシアの西シベリア地区や中国の新疆タリム盆地などに豊富な資源が存在します。中国政府による西気東輸計画によってこれらの資源が東部沿岸工業地帯に運ばれ、利用される日は近い。	12/1 (土) 15:00～16:30
10	増田 祐司	北東アジアと日本	いま、北東アジアは大きく変わりつつあります。韓国、モンゴル、ロシア、北朝鮮、中国等の北東アジア各国は、社会発展を進め、新しい地域を作り上げています。この地域の課題などを考え、日本、島根にとっての意義を考え、今後を展望します。	12/8 (土) 15:00～16:30